

平成20年度 府立西浦高等学校 学校評価報告書

1 自己評価結果

項目	設 定 目 標	自 己 評 価
規範意識	「休まず、遅れず登校させる」 全教職員の共通理解の下、やさしさ・温かみを背景にした粘り強く厳しい生徒指導や保護者との連携強化などを通して、自己統制力を高める中で遅刻・欠席を減らす。	学年団・生徒指導部を中心に、全職員で遅刻・服装・頭髪・喫煙等の指導に取組んだ。年間延欠席者数は前年度より若干減少、年間延遅刻者数は横ばいであった。学級減で在籍数が減っていることを勘案すると、さらなる取り組みの強化が求められる。
学力充実	「わかる喜びや達成感などを味わわせる」 基礎・基本を重視した授業の展開、少人数授業によるきめの細かい指導により「わかる喜び」や充実感、及び達成感を味わわせる。	少人数授業やIT授業の実施、創意工夫したプリント学習など、「わかる」授業の展開に努めた。また、希望者及び学力不振者に対する補習を実施するなど、個別指導にも努めた。そのような中、学校教育自己診断によれば、授業はわかるとした生徒は40%に止まった。さらなる授業改善や工夫が求められる。
中退防止	「帰属意識を高め、中途退学者を減らす」 活気に満ちた特別活動の実践やガイダンス機能の充実、及び教育相談機能の充実などを通して、自尊感情を高めると共に他者への思いやりの心を育む中で、学校への帰属意識を高め中途退学を減らす。	生徒会を中心に行事の充実や部活動の活性化を図ると共に図書室や2つの相談室を開放するなど居場所づくりに努めた結果、中途退学者は58名(昨年度69名)と前年より減少した。 式や集会時の様子からも、少しずつだが、望ましい方向に進みつつあることがうかがえる。
進路実現	「進路決定率100%をめざす」 自己の在り方、生き方を考えさせていく中で、将来への夢を具体的に持たせる指導を3年間一貫して行い、進路決定率100%をめざす。	未定者53名、進路決定率は70%。自らの将来を熟考することなく就労に対する意識も高まらない生徒が多い現状の中、「自己のあり方、生き方」を考えるキャリア教育をさらに推進し、進路決定率の向上に努める。
支援教育	「特別支援教育の充実を図る」 研修を深め、支援を必要とする生徒への特別支援教育の充実を図る。	対象生徒の抜出し授業を活用してジョブ及びソーシャルトレーニングを実施。療育手帳の取得に向け助言や支援。障害者職業センター等と連携し、職場体験の実施。アルバイト就労及び障害者職業能力開発校への合格を果たし卒業。 初めて支援する生徒を特定し、校内委員会を設置して学校全体での取組みとしたが、大きな成果を収めた。

2 学校教育自己診断における結果と分析

(<u>実施</u> ・ 実施せず) *実施対象 (<u>教職員</u> ・ <u>児童・生徒</u> , <u>保護者</u> ・ その他) <u>教職員</u> 生徒について欠席遅刻が多く、課題提出が不十分で私語・居眠り等授業対応で苦慮しているとあるが、生徒・保護者にはその認識が希薄である。 <u>生 徒</u> 7割近くが本校に入学してよかったと考え、6割近くが学校は楽しいとある。 <u>保護者</u> 7割前後が生徒は校則やルールを守り、学校生活を楽しんでいると考えている。規範意識が低いと考える教職員とは整合せず、家庭での指導が困難になっている一因と考えられる。
--

3 学校協議会における提言内容

*実施日 第1回(5月10日)第2回(9月12日) 第3回(1月17日) ・保護者の登校を促し、授業の様子等、子どもの実態をつぶさに見て貰って改善に向けて連携を強化することが求められる。 ・禁煙指導は保護者を巻き込んだ指導が必要である。タバコの害について認識を深めさせる禁煙教育の充実と体育館トイレを施錠する等の対応の強化が必要。 ・生徒は教師の言動をよく見ており、敏感である。教師には、注目されているという「自覚」を持つことがさらに求められる。
